

# 資産作りの 新常識

まさおか としゆき  
正岡 利之 (MUF G資産形成研究所長)

## 売買せずには保有し続ける

**価** 格変動の大きな相場の中  
で、価格が下がると心配に  
なる。そうならないように、いい  
投資対象を見つけ出し、もうかる  
投資タイミングにチャレンジする  
のも一つの方法だ。

しかし、不安な気持ちに耐えら  
れずに売却すると、そこが安値だ  
ったり、逆に安心して買ったら高  
値だったということはある。

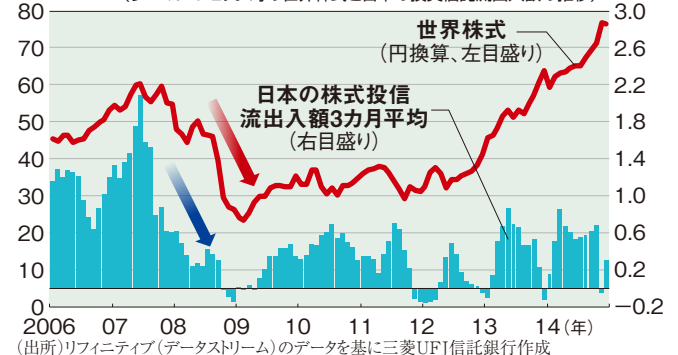
図1は折れ線が株価の動き、棒  
グラフは株式投信への資金の流出  
入額である。両者は同じような方  
向に動くことが多い。矢印のよう  
に相場が下がるときには、買いを  
手控えて売りにまわり、最安値で  
は売却額の方が多くなる。

相場が上がるときにも、同様で  
ある。高くなると買い、安くなる  
と売る傾向にある。相場観でタイ  
ミングをとることは、そう簡単な  
ことではない。

### 「評価上の損益」

そうならないように短期的な価  
格の上下動を「乗り越え」ながら、  
最終的に資産額を増やす方法を考  
えればいい。「乗り越える」方法  
は、価格の動きをつかまえてうま  
く売買することだけではない。発  
想を切り替えて、売買せずじつ

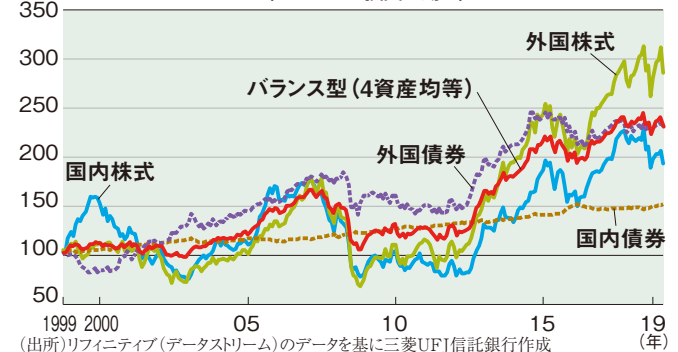
図1 株価の暴落時にはあわてて投資から逃げる傾向が  
(リーマン・ショック時の世界株式と日本の投資信託流入流出額の推移)



と保有していることも、一つの有  
力な方法だ。この場合、価格が上  
下しても、「評価上の損益」が増減  
するだけである。

ポイントとなるのは、「分散投  
資」だ。株式の個別銘柄は銘柄固  
有の要因によって影響を受ける。  
一つの株に絞ると、その企業にす  
べてを委ねることになる。複数の  
銘柄に分散投資すれば、不調な銘  
柄があっても、他の銘柄でカバー  
できる。さらに株式市場全体の時  
価残高の総額で見ると、上下動を  
繰り返しながらも、トレンドとし  
ては上昇傾向を続けている。  
各資産別の価格の推移を見てみ

図2 投資対象を広げると安定して収益を得られる  
(バランス型投資の動き)



よう(図2)。国内外の株式はリー  
マン・ショックの影響はあるもの  
の、1999年からの20年間で2  
〜3倍になっている。株式だけで  
はなく、国内外の債券を加えた4  
資産均等投資の「バランス型」で  
は、債券を組み入れることで、上  
昇と下落の両方の局面で振幅幅が  
緩和され、より安定した価格推移  
となっている。

このように発想すると、短期的  
な価格の動きに一喜一憂せず、「ポ  
ートフォリオ運用」の考え方に転  
換する。適切に分散すれば、後は  
保有を継続することだ。



1982年、三菱信託銀行(現  
三菱UFJ信託銀行)入社。  
主に年金や投資信託を中  
心として、資産運用業務に  
携わる。2015年より当社で  
金融教育業務に従事。18  
年8月より現職。

